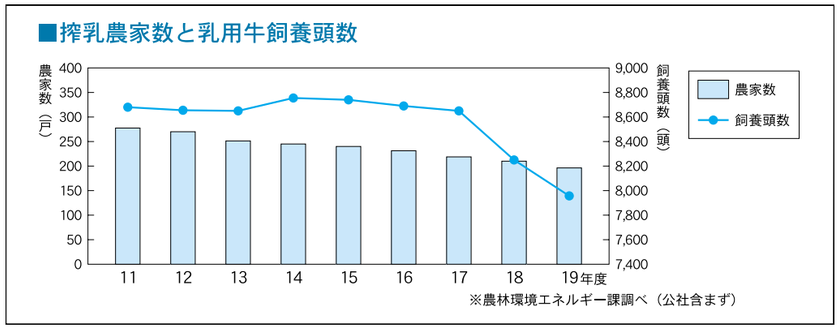
酪農危機を乗り越えよう！

酪農が危機に直面しています。平成十九年から家畜用の餌や農業用生産資材が値上がりし、酪農経営を圧迫しています。町の基幹産業「酪農」を守るためには、ここが踏ん張りどころ。この危機を乗り越える方策を考えてみます。



危機に直面しています

平成十九年になってから家畜用の餌や農業用生産資材が値上がりし、酪農経営を圧迫しています。

この原因は、とうもろこしや原油の国際価格の上昇と言われています。特にとうもろこしは、アメリカにおけるバイオエタノール向けの需要が増えたことやオーストラリアの干ばつ、中国の需要増加などによって価格が高騰し、とうもろこしを主原料とする配合飼料は平成十七年と比較すると一・五倍近く上昇しています。

この飼料価格の上昇は、当町の基幹産業である酪農に大きな影響を及ぼしています。搾乳農家は今年に入ってから二百戸を割り込み、さらに農業所得の低下などによって生活への不安が広がっています。

粗飼料自給率の向上が危機を乗り越えるカギ

対策本部を設置しました

家畜の飼料は、国際価格が上昇した場合は、配合飼料価格安定制度によって、直前の一年間の平均価格を超える部分は基金から補てんする仕組みになっています。しかし価格の上昇が数年に及ぶ場合はどうしても農家の負担額は増えざるを得ません。

町は今年一月、この危機を乗り切るために、農業生産資材・飼料価格等高騰対策本部を設置し、餌づくり講演会を行うとともに各種対策を講じています。その第一歩として平成二十年度からデントコーン種子助成事業と育成牛預託助成事業を新たに創設しました。

育成牛預託助成事業では、育成牛を葛巻町畜産開発公社に預けることによって、農家は搾乳管理に集中し高品質の牛乳を生産することができます。各事業を有功に活用して、粗飼料生産コストの削減と粗飼料自給率の向上を図りましょう。

また、ＪＡ新岩手と町が連携して、畜産酪農生産性向上対策として、飼料作物を新たに作付けした場合や既存の草地更新などにも定額で補助することにしました。

さらに、国では、平成二十年度限りの事業として、都府県酪農緊急経営強化対策事業を実施することになりました。一定の要件を満たせば乳牛一頭あたり一万六千五百円を交付します。できるだけ多くの酪農家が恩恵を受けられることが期待されています。

支援対策あれこれ

①【デントコーン種子助成事業】
デントコーンの種子購入に対し町と農協が40％を助成

②【育成牛預託助成事業】
葛巻町畜産開発公社に育成牛を預託した場合に、１日・１頭当たり200円（夏期放牧は100円）を町と農協、同公社が助成

③【畜産酪農生産性向上対策推進事業】
新規飼料作物の作付けに対し、種子と肥料代相当額として10㌃当たり牧草15,000円以内、とうもろこし20,000円以内を交付。また、既存草地の更新に対して10㌃当たり15,000円、草地を飼料畑に変更作付けした場合、10㌃当たり20,000円を交付

④【都府県酪農緊急経営強化対策事業】
一定の要件を満たした場合、経産牛１頭当たり年間16,500円を交付。従来の取り組みに追加し、もう一つの取り組みを実施した場合、加算金として年額9,000円を交付

良質な粗飼料生産を

牛の飼料は、粗飼料と濃厚飼料（配合飼料）に分類されます。

本町の粗飼料の自給率は約六十パーセントですが、濃厚飼料はほとんどの農家が購入しています。品質の良い牛乳を生産するためにはある程度の濃厚飼料が必要なため、飼料高の影響は深刻です。平成十七年と比較すると成牛一頭当たりの餌代は年間五～六万円増えています。できるだけ良質の粗飼料を生産するとともに、耕作放棄地などを利用して粗飼料の自給率を向上させましょう。

酪農家の乳牛改良技術を競う共進会

乳質改善に努力を

乳価は基準乳価と乳成分による格差乳価を加算して決定されます。この格差乳価を決めるのは、乳脂肪率、無脂乳固形分率、体細胞数、細菌数の四種類です。品質の良い牛乳を生産すると高く買い取り、悪い牛乳を生産すると安く買い取る仕組みで、最悪の場合は出荷停止となります。乳脂肪率、無脂乳固形分率は餌によって変わりますが、体細胞数と細菌数は飼養管理や搾乳環境などに影響されます。パイプラインやバルククーラーなどの搾乳機械を定期的に点検し、できるだけ格差乳価による損失を減らすようにしましょう。

コスト削減意識を

厳しい酪農情勢を乗り切るためには、個々の経営体が自らの経営状況を把握し、徹底したコストの削減を行うことが重要です。酪農経営にはいろいろな経費がかかっています。その一つ一つを点検し、少しでも安くできるものは安くするようにしましょう。また、設備の投資については慎重に検討し、できるだけ経営を圧迫させないようにしましょう。

経営診断を行います

町は、本年度から岩手県畜産協会に依頼し、酪農家の経営診断を行っています。労働力や土地の状況、生乳の生産量や乳成分、繁殖の状況などから経営の問題点を分析し、改善対策を提案するものです。診断料は無料で、今年度は三十戸の経営診断を予定しています。

終わりに、厳しい酪農環境ですが各種支援制度を活用しながら、個々の農家が知恵を出し合い、この危機を乗り越え酪農家と酪農の町を守りましょう。

パイプラインのポンプ圧力を点検する専門員

＊**乳脂肪**…牛乳に含まれる脂肪。乳脂肪率は3.5％が基準で、それ以下は乳価が安くなる。＊**無脂乳固形分**…牛乳から水分と乳脂肪を除いたものでたんぱく質、炭水化物、カルシウム、ビタミンなど。無脂乳固形分率8.4％が基準でそれ以下の乳価は安くなる。＊**体細胞数**…牛乳に含まれる白血球や乳腺組織からはげ落ちた上皮細胞。飼養管理や搾乳環境によって牛にストレスがかかると体細胞数が増える。35万/mlを超えると乳価は安くなる。＊**細菌数**…牛乳に含まれる細菌数。搾乳環境が悪くなると増えることがある。30万/mlを超えると出荷停止。

大川原　一 さん
酪農家（小苗代）

農機具などの更新や堆肥舎の建築など、設備投資した分の返済も重なって大変ですが、家族みんなで頑張るつもりです。

労働時間が多少長くはなりますが、餌を与える回数を増やして乳量アップを図ったり、飼料畑の石をこまめに拾うなどして機械の故障を少なくするなど、小さなことでも地道に実践するつもりです。ミルキング検査も受けています。ここが頑張りどころですね。